

PAT-NO: JP409163901A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09163901 A
TITLE: FISHING ROD
PUBN-DATE: June 24, 1997

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
TAKEUCHI, HIROSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
MAMIYA OP CO LTD N/A

APPL-NO: JP07348202
APPL-DATE: December 19, 1995

INT-CL (IPC): A01K087/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a fishing rod, capable of improving the handleability thereof and the operating efficiency of a reel and sufficiently operating the fishing rod without deteriorating the operating efficiency of the reel even in a cold period such as the winter season by dividing a gripping part into an upper gripping part and a lower gripping part and contact bonding and holding a reel leg in a space between both the gripping parts.

SOLUTION: This fishing rod 2 is obtained by dividing a gripping part 10 into an upper gripping part (10a) and a lower gripping part (10b) and contact

Best Available Copy

bonding and holding a reel leg 4 in a space between both the gripping parts (10a) and (10b) so as to enable the installation and removal of horizontal parts (4a) and (4b) of the reel leg 4 in a state thereof covered with the gripping part 10. The gripping part 10 is smooth without any protruding part therein and a sense of incompatibility is eliminated to surely improve the handleability of the fishing rod 2.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-163901

(43)公開日 平成9年(1997)6月24日

(51)Int.Cl.⁵

A 0 1 K 87/08

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 87/00

技術表示箇所

6 2 0 D

6 2 0 E

審査請求 未請求 請求項の数7 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平7-348202

(22)出願日 平成7年(1995)12月19日

(71)出願人 000128946

マミヤ・オービー株式会社

埼玉県浦和市西堀10丁目13番1号

(72)発明者 竹内 弘

埼玉県浦和市西堀10丁目13番1号 マミ

ヤ・オービー株式会社内

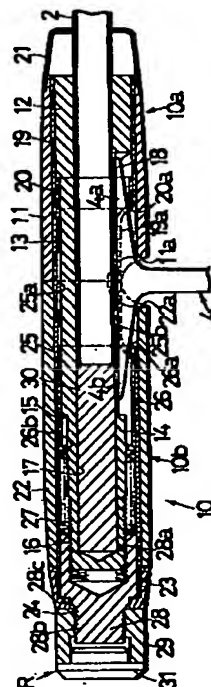
(74)代理人 弁理士 白崎 真二

(54)【発明の名称】 釣 竿

(57)【要約】

【課題】 リール足に直接手が触れることがなくなるため寒い時期においてもリールの操作性を低下させることのない釣竿を提供すること。

【解決手段】 リール4を脱着自在に取付ける釣竿2において、グリップ部10は上部グリップ部10aと、下部グリップ部10bに分割され、リール足4が両グリップ部10a、10bの間で圧着把持されるように構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 リールを脱着自在に取付ける釣竿において、グリップ部は上部グリップ部と、下部グリップ部に分割され、リール足が両グリップ部の間で圧着把持されるようになっていることを特徴とする釣竿。

【請求項2】 上部グリップ部が、下部グリップ部にネジ込み可能となっていることを特徴とする請求項1記載の釣竿。

【請求項3】 上部グリップ部に設けられた固定スリーブと、下部スリーブに設けられた移動スリーブとによりリール足が圧着把持されるようになっていることを特徴とする請求項1記載の釣竿。

【請求項4】 下部グリップ部に対して移動スリーブが軸外向き方向に弾発自在になっていることを特徴とする請求項1記載の釣竿。

【請求項5】 上部グリップ部にリール足の底部を押圧するための押圧調整体を設けたことを特徴とする請求項1記載の釣竿。

【請求項6】 押圧調整体は、ネジ止めにより突出自在になっていることを特徴とする請求項5記載の釣竿。

【請求項7】 上部グリップ部と下部グリップ部とでリール足を圧着把持した状態で、リール足の水平部の殆どが両グリップ部で覆われることを特徴とする請求項1記載の釣竿。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は釣竿に関し、詳しくはそれぞれ分割された上部グリップ部と下部グリップ部とでリール足を圧着把持した状態で、リール足の水平部の殆どが両グリップ部で覆われるようにした釣竿に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、釣り人口が増大しており、いわゆる大衆的な釣りブームとなっており、特に季節には関係なくオールシーズンに亘って行われている。それは、竿、リール、仕掛け等の釣り具の開発に負うところが大きい。ところで、釣りにおいては、リールを用いることが多い。このリールは、釣竿のグリップ部近くに取付けて使用されるが、例えば、図6に示すような方法で取付けられている。

【0003】すなわち、釣竿2には、グリップ部1とそれより離れた上部に補助グリップ部3が設けられており、リールはリール足4を介してグリップ部1と補助グリップ部3との間に位置する取付け部8に取り付けられている。リール足4の水平部4a、4bは、グリップ部1への取付け部8となる部分で、通常、上面が傾斜状に形成されている。

【0004】一方、グリップ部1の下方部位1bの上部には、リング状の係止具5が固定されている。この係止具5にはリングの一部を外方に突出させてグリップ部1

の上方に向けて開口した装着部5aが形成されている。また、グリップ部の上方部位1aの上部には、リング状の係止具6が軸方向移動可能に挿嵌され、この係止具6は、係止具5と同様にリングの一部を外方に突出させてグリップ部1下方に向けて開口した装着部6aが形成されている。このようにして、一对の係止部5、6は、装着部5a、6aの開口側が対向して配置される。

【0005】そこで、リール足4は、その底部をグリップ部1の上方部位1aのリール取付け箇所8の外周に密着させた状態で、水平部の一端4bがグリップ下方部位1b上部にある係止具5の装着部5aに差込まれる。また、水平部の他端側4aは、係止具6を軸方向に移動することにより、その装着部6aに差込まれる。この状態で、係止部6は、上方部位1aのネジ9に螺合されたナット7を回すことにより軸方向左側に移動される。そしてリール足4の水平部他端4aを装着部6aに深く差込んでいく。

【0006】さらに、ナット7を回して行くと、係止部6の装着部6aは水平部4aの上面傾斜部を押圧し、同時に水平部4bの上面傾斜部も係止部5の装着部5bにより押圧される。これによりリールは、グリップ部1のリール取付け部8に対しリール足を強固に固定することができる。グリップ部1にリールが取付けられた後、釣人は、この水平部4a、4bに手を掛けてリールの操作を行う。ところが、この水平部4a、4bは、通常、金属で形成されており外に露出しているため、冬季にはこの部分が冷たくなる。特に、冬季においては、この冷えた部分が手に触れて冷たく感ずる。

【0007】そして、長く握っていることにより手が冷え、極端な時はリール操作が困難となることがある。また、グリップ部1の外周に装着されている係止部5、6は、やはり金属でできているため、冷たく感ずることと、グリップ部1を握った際の感触が悪く、違和感を感じものとなっている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記の問題点の解決を意図したものである。即ち、本発明の目的は、リール足に直接手が触れることがなくなるため寒い時期においてもリールの操作性を低下させることのない釣竿を提供することを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】しかして、本発明者等はこのような課題に対して、リールの足部が全部覆われた状態でグリップ部に取付けられればこれが直接手に触れることがなくなり、グリップ部にも突出部がなく滑らかで違和感がなくなり釣竿の扱い性が向上させることを見出し、この知見に基づいて本発明を完成させたのである。

【0010】すなわち、本発明は、1、リールを脱着自在に取付ける釣竿において、グリップ部は上部グリップ

部と、下部グリップ部に分割され、リール足が両グリップ部の間で圧着把持されるようになっている釣竿に存する。そして、2、上部グリップ部が、下部グリップ部にネジ込み可能となっている1、の釣竿に存する。そしてまた、3、上部グリップ部に設けられた固定スリーブと、下部スリーブに設けられた移動スリーブとによりリール足が圧着把持されるようになっている1、の釣竿に存する。

【0011】そしてまた、4、下部グリップ部に対して移動スリーブが軸外向き方向に弾発自在になっている

1、の釣竿に存する。そしてまた、5、上部グリップ部にリール足の底部を押圧するための押圧調整体を設けた1、の釣竿に存する。そしてまた、6、押圧調整体は、ネジ止めにより突出自在になっている5、の釣竿に存する。そしてまた、7、上部グリップ部と下部グリップ部とでリール足を圧着把持した状態で、リール足の水平部の殆どが両グリップ部で覆われる1、の釣竿に存する。

【0012】

【作用】分離している上部グリップ部10aと下部グリップ部10bとの間で、リール足が両側から圧着把持される。その際、リール足の水平部が、上部と下部の両グリップにより覆われる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、実施の形態を挙げ図面に基づいて本発明を説明する。先ず、本発明の釣竿につき説明する。

【0014】図1は本発明の釣竿の一実施形態を示し、グリップ部の全体外観図、図2はグリップ部の断面図、図3は下部グリップ部の断面図、図4は別の実施形態を示すグリップ部の断面図であり、図5は下部グリップ部の部分断面図である。図1に示すように、本発明の釣竿におけるグリップ部10は、上部グリップ部10aと、下部グリップ部10bに分離可能に構成され、リール足4の水平部4a、4bが両グリップ部10a、10bの間に覆われると共に圧着把持されるように構成されている。

【0015】図2に示すように、上部グリップ部10aは、主に筒体11、固定スリーブ19、ホルダ12、クランプ筒体20等で構成される。筒体11は、例えばコルクのような非金属の軟質の材質で筒状に形成され、分割部端面にはリール足4の水平部4aが通過可能な切欠き11aが形成される。また反対側端面には、釣竿2を挿通した例えばアルミニウム製（以下アルミと称する）キャップ21が装着固定されている。

【0016】また固定スリーブ19は、アルミの材質で円筒状に形成されており、コルク製筒体11の内部に接着固定されている。そして固定スリーブ19の分割部端面には、リール足4の水平部4aが通過できる長形切欠き19aが形成されている。ホルダ12は、例えば合成樹脂製でできており段付き軸状に形成され、このホルダ

12の図でいう右側の外周は、固定スリーブ19内に接着固定されている。

【0017】さらに、ホルダ12は、有底の深穴17が軸方向に穿設されている。この深穴17内にはスペーサ30を介して釣竿2が所定深さまで挿入され接着固定されている。このホルダ12には、外周に1段目の段付き部を形成する第1小径部13と、2段目の段付き部を形成する第2小径部14が形成される。そして、この第1小径部13の外周と固定スリーブ19の内周部の間の空間部に、クランプ筒体20が接着固定される。

【0018】また、ホルダ12の第2小径部14の左側端面外周にはネジ16が螺設され、ホルダ12の右側大径部から第1小径部13にかけた軸方向に長溝18が形成される。このホルダ12の長溝18は、ホルダ12を筒体11内に固定スリーブ19を介して接着固定した際、筒体11の切欠き11aに対応させて位置決め設定される。

【0019】次に、下部グリップ部につき説明する。ここでは、下部グリップ部が上部グリップ部に接続された状態を示す図2、および下部グリップの断面を示す図3を基に説明する。すなわち、下部グリップ部10bは、主に、筒体22、固定スリーブ25、移動スリーブ26、回転締付け部R、圧縮コイルばね27等で構成される。ここで、筒体22は、上部グリップ部10aの筒体11と同様にコルクのような非金属の軟質の材料で筒状に形成され、分割部端面にはリール足の水平部4bを通過させるための切欠き22aが形成されている。

【0020】また固定スリーブ25は、例えばアルミ製の材質で円筒状に形成されており、筒体22内部に接着固定されている。そして、固定スリーブ25の分割部端面には突起25aが形成され、同端面にはリール足の水平部4bが通過できる長形切欠き25bが形成されている。この固定スリーブ25の左側端面のネジ部には、例えば、アルミ製の案内係止部材23が螺着固定され、この案内係止部材23は筒体22の左側端面に嵌合固定されている。この案内係止部材23は、先に案内部24が突設されている。

【0021】一方、回転締付け部Rは、主に回転部材28、つまみ29、エンドキャップ31等で構成される。この回転部材28は、その太径部が固定スリーブ25に回転自在に挿嵌され、小径部はつまみ29にネジ込まれて接着剤等により固定されている。つまみ29と回転部材28の段付き部28cとの間で形成される凹溝に、案内係止部材23の案内部24が遊嵌されている。つまみ29は、例えば合成樹脂製で筒状に成形され、例えばゴム製のエンドキャップ31が装着されている。

【0022】従って、回転締付け部Rは、段付き部28cに案内されて回転することができる。ここで、回転締付け部Rを回転させることで、その回転締付け部Rの回転部材28も回転し、上部グリップ部10aのホルダ1

2のネジ16と螺合することになる。移動スリーブ26は、固定スリーブ25の内周とホルダ12の第1小径部13外周との間で形成される空間に軸方向摺動可能に配設される。この移動スリーブ26は、回動部材28との間に介挿されている圧縮コイルばね27により移動スリーブ26を外方に弾発自在となっている。

【0023】そして、この移動スリーブ26は、下部グリップ部10bから上部グリップ部10aを切離す際、圧縮コイルばね27の作用で外方へ押出されるが、固定スリーブ25の右側端部の突起部25aとの当接により外方への飛出が防止される。詳しくは後述するが、リール足4の水平部4a、4bをホルダ12の長溝18底部に保持した状態で上部グリップ部10aを下部グリップ部10bに挿入し、回転締付け部Rを回転させることによりホルダ12のネジ16に回動部材28の雌ねじ28aを螺合していく。

【0024】この時、圧縮コイルばね27は、移動スリーブ26を軸方向外向きに弾発することにより、リール足の水平部4bを移動スリーブ26の端部26aで弾圧付勢する。一方、クランプ筒体20の端部20aは、リール足4の他方の水平部4aの上面傾斜部を押圧する。このようにしてリール足4の両水平部4a、4bは、クランプ筒体20と移動スリーブ26との弾発力により圧着把持されるのである。

【0025】次に、他の実施の形態につき図4ないし図5を基に説明する。尚、前述した構成部分と同一構成部分については同一符号を付して詳細な説明は省略する。本実施形態は、長い間、リールを釣竿に着脱させて使用していると、リール足の両水平部、移動スリーブ、クランプ筒体等が変形、磨耗するため、つまみ29の回動による移動スリーブ26の移動範囲内では把持力が十分得られなくなる場合が生ずる。

【0026】また、リールの種類によって、リール足、特に水平部に寸法が異なる規格のものの商品として出ている。このような場合に対応できるようにしたものである。すなわち、本実施形態が前述した実施形態と相違する構成は、上部グリップ10aにネジ穴を設け、その穴に押圧調整体35を突出自在に設けた点である。

【0027】具体的には、上部グリップ部10aのホルダ12とスペーサ32とを貫通して、上部グリップ部10aの軸線と直交するネジ孔33および34を穿設し、このネジ孔33に押圧調整体35である小ネジが螺合されている。この小ネジ35を長溝18の底部より適宜の長さ突出させた状態に調整して設定する。この調整は、押圧調整体35が、図4に示すように上部グリップ部10aと下部グリップ部10bとが互いに接合される前の離れた状態の時、前もって行われる。

【0028】図5に拡大して示すように、小ネジ35の頭を予め長溝18底部より僅かに突出させた状態で設定しておくことにより、後述するようにリール足4の水平

部4bの底を、例えばある間隔hだけ押上げた状態で圧着把持することができる。従って、リール足4の押圧把持力を十分に保証することができる。

【0029】次に、本発明の釣竿の動作を説明する。最初は、上部グリップ部10aと下部グリップ部10bは、分割され分離した状態にあって、例えば下部グリップ部10bは、図3に示す状態となっている。先ず図2または図4に示すように、リール足4の水平部4aを上部グリップ部10aの分割端面側より差込み、ホルダ12の長溝18内に位置させる。この状態で、上部グリップ部10aのホルダ12を下部グリップ部10bの内部に挿入し、ホルダ12の左端部のネジ16を回動部材28の雌ねじ28aに突き合わせる。

【0030】そこで、回転締付け部Rを回転してホルダ12のネジ16を回動部材28の雌ねじ28aにネジ込んでいくと、上部グリップ部10aと下部グリップ部10bとは、その先端部（分割部端面）が互いに接近していく。それと同時にホルダ12の固定スリーブ19に固定されたクランプ筒体20も移動し、クランプ筒体20の当接部26aがリール足の水平部4aの上面傾斜部に当接する。

【0031】同時に移動スリーブ26は、圧縮コイルばね27を介して軸方向に弾圧され移動スリーブ26の当接部26aが水平部4bの上面傾斜部に当接する。なお回転締付け部Rを回転させていくと、上部グリップ部10aと下部グリップ部10bとの先端部（分割部端面）が互いに突き当たって止まる（この時、回転締付け部Rも回動が止まる）。この時、リール足両側の水平部4a、4bの上面傾斜部は、クランプ筒体20の押圧力と移動スリーブ26の圧縮コイルばね27の弾発力により強く圧着把持される。

【0032】ここで、通常は、上部グリップ部10aと下部グリップ部10bとの分割部端面が互いに突き当たった時に、適度の弾圧把持力となるように圧縮コイルばね27の強さが設定されている。そのため、リール足4の水平部4a、4b、移動スリーブ、クランプ筒等が長期の使用により変形、磨耗すると、圧着把持力が十分得られない場合が生ずるが、この場合は、既に述べたように、図4および図5に示す押圧調整体35である小ネジを、予め長溝18底部より適度に突出させた状態に調整設定しておくことにより、圧着把持力を確保することができる。また、リール足3の水平部4aの寸法、形状が異なった規格製品に対しても、同様の調整により対応することができる。

【0033】以上本発明を説明してきたが、本発明は前述した実施形態にのみ限定されるものではなく、その本質から逸脱しない範囲で、他の種々の変形例が可能である。例えば、固定スリーブ、移動スリーブ、キャップ等の構成部品をアルミ製の材質よりなる例として説明したが、そのを構成品の機能を保証できるものであれば、材

料の種類は問わない。また釣竿の差込み位置を決めるためのホルダの深穴内のスペーサを、ホルダと一体的に形成してもよい。

【0034】

【発明の効果】リール足をグリップで覆われた状態で脱着可能に取付けることができるため、リール足を直接手を触れることなく使用することができ、冬季等の寒い時期にもリールの操作性を低下させることなく、釣竿の取扱いならびにリールの操作性を向上させることができる。従来のような、リール足を止める係止具が表面に全

く出ない。さらに、リール足の取付け部はグリップで覆

われているため、取付け部に不要な物が絡んだりすることもなく、釣竿の使い勝手が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の釣竿の一実施形態を示し、釣

竿のグリップ部の全体外観図である。

【図2】図2は、グリップ部の断面図である。

【図3】図3は、下部グリップ部の断面図である。

【図4】図4は、別の実施形態を示すグリップ部の断面図である。

【図5】図5は、下部グリップ部の部分断面図である。

【図6】図6は、従来の釣竿のグリップ部の全体外観図

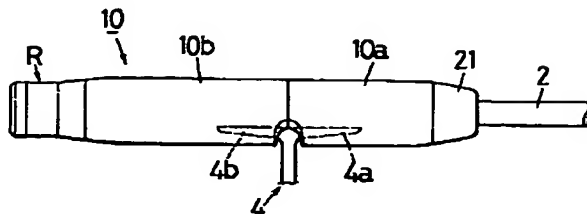
である。

【符号の説明】

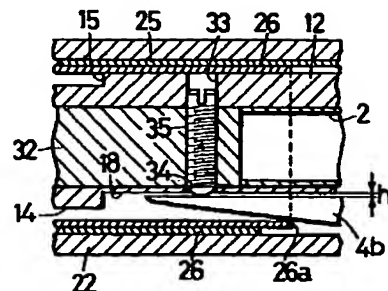
- 1…グリップ部
- 1 a…上方部位
- 1 b…下方部位
- 2…釣竿
- 3…補助グリップ部
- 4…リール足
- 4 a…水平部
- 4 b…水平部
- 5…係止具
- 5 a…装着部
- 6…係止具

- 6 a…装着部
- 7…ナット
- 8…リール取付け部
- 9…ネジ
- 10…グリップ部
- 10 a…上部グリップ部
- 10 b…下部グリップ部
- 11…筒体
- 12…ホルダ
- 13…第1小径部
- 14…第2小径部
- 15…段付き部
- 16…ネジ
- 17…深穴
- 18…長溝
- 19…固定スリーブ
- 20…クランプ筒体
- 21…キャップ
- 22…筒体
- 23…案内係止部材
- 24…案内部
- 25…固定スリーブ
- 25 a…突起
- 25 b…長形切欠き
- 26…移動スリーブ
- 27…圧縮コイルばね
- 28…回動部材
- 29…つまみ
- 30…スペーサ
- 31…エンドキャップ
- 32…スペーサ
- 33、34…ネジ孔
- 35…押圧調整体（小ネジ）
- R…回転締付け部

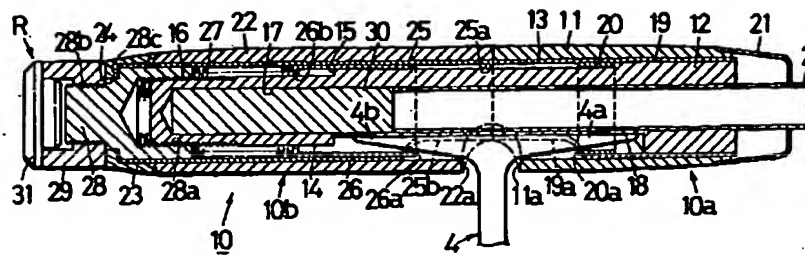
【図1】



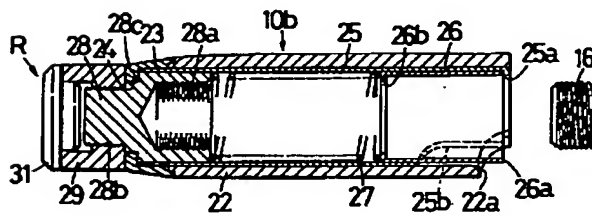
【図5】



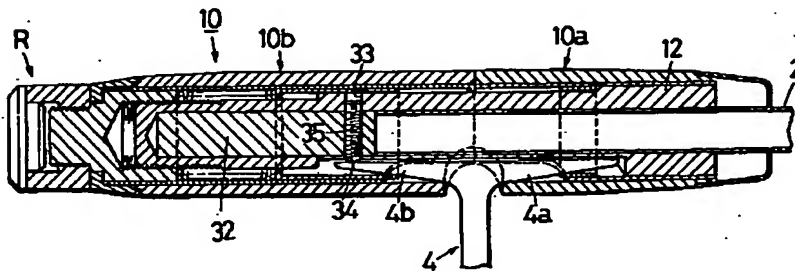
【図2】



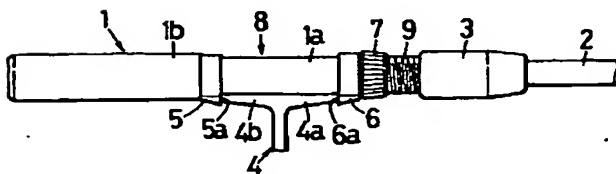
【図3】



【図4】



【図6】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.